

PureVerify マニュアル

Version : 20150220
2015年3月9日

■ 目次

1. PureVerify の概要	3
1.1 PureVerify とは	3
2. PureVerify の特徴	3
2.1 PureVerify の特徴	3
3. インストール方法	3
3.1 β テスト用マシン インストール準備	3
3.2 Acrobat の インストール	4
3.4 PureVerify インストール	5
4. 基本操作について	7
4.1 一連の流れ (PureVerify 起動から、検査結果レポートの確認まで。)	7
4.1.1 Preference 説明	8
4.1.2 Cancel 説明	9
4.2 LOG-Diff...ボタン	12
5. 検査レポート	13
5.1 検査レポートのファイル名	13
5.2 Acrobat の設定	13
5.3 サマリー	14
5.4 検版差異画像	16
5.4.1 注釈の説明	17
5.4.2 オリジナル PDF の表示	20
7. 留意事項	21
7.1 留意事項	21
8. 付録	22
8.1 フォルダ構成	22
8.3 セットアップファイル	23
8.4 エラーコード	25

1. PureVerify の概要

1.1 PureVerify とは

透過性テストの作業効率向上を目的に、PureVerify を改造したツールです。

2. PureVerify の特徴

2.1 PureVerify の特徴

PureVerify には以下の様な特徴があります。

- ・リファレンス TIFF とターゲット TIFF の検版を行います。検版は DtDiff と同等のアルゴリズムを
使用し、高速化、不具合修正を行っています。
 - ・検版結果は検査レポートとして PDF で出力し、Acrobat で確認できます。Photoshop 不要。
 - ・検査レポートは、[検版差異のあった画像結果をレイヤー切り替えで確認できます。](#)
 - ・検版差異は[マーク（注釈）で強調表示され、注釈にコメントを記入することができます。](#)
※透過性の報告書として可能か要検討。
 - ・検査レポートの差異画像のリンクより、[オリジナル PDF を開くことができます。](#)
 - ・検版途中、レポート作成途中で、終了した分までの[レポートを作成することができます。](#)
 - ・検査レポートにはパスワードが設定できます。
 - ・
 - ・
-

3. インストール方法

3.1 β テスト用マシン インストール準備

PureVerify を実行するマシンを準備します。

---必須---

- ・OS Windows **64bit** Operating System

---推奨---

- ・マシンスペック

CPU：	Core i7
メモリ：	8 GB 以上
HDD：	1 TB 以上
モニター：	1920x1200 以上推奨

3.2 Acrobat の インストール

Acrobat XI をインストールしてください。

※Adobe Reader XI でも確認、注釈記入できますが、網の濃度値の確認ができません。

3.4 PureVerify インストール

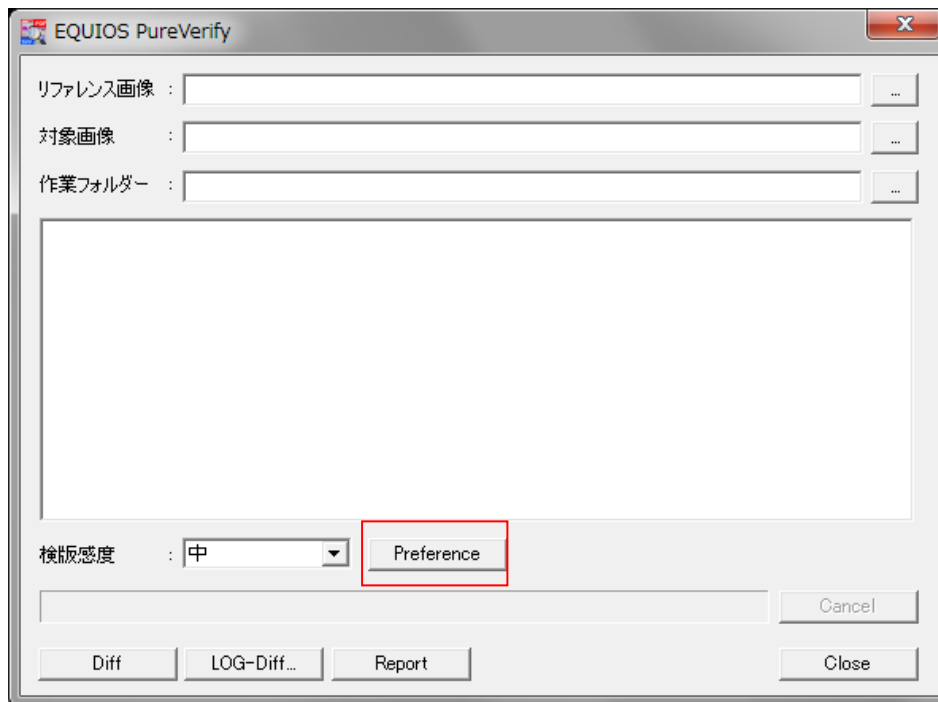
- 1、PureVerify 実行マシンの D:¥に、自己解凍ファイル (PureVerify_v0.91.exe) をコピーします。
- 2、自己解凍ファイルを実行します。
- 3、D:¥PureVerify¥bin¥X64¥RipVerify.exe のショートカットをデスクトップに作成します。
- 4、EquiosCenter¥proc¥bin のコピー
D:¥ EquiosCenter¥proc¥bin を D:¥PureVerify へコピーします。

※EquiosCenter¥proc¥bin 以下は,Common, PDFL, Resource が必要

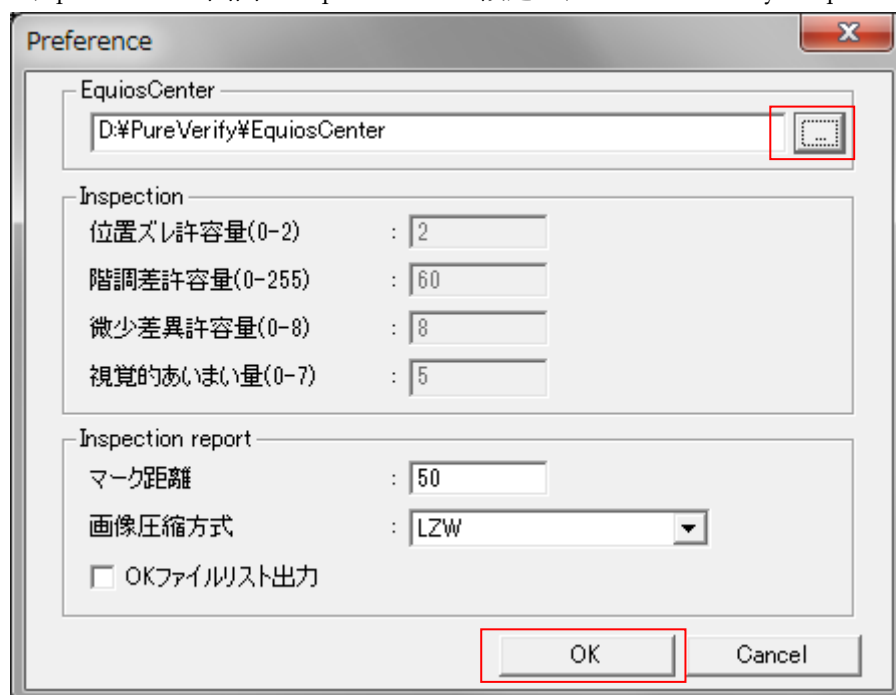
- 5、ショートカットをダブルクリックし、PureVerify を起動します。



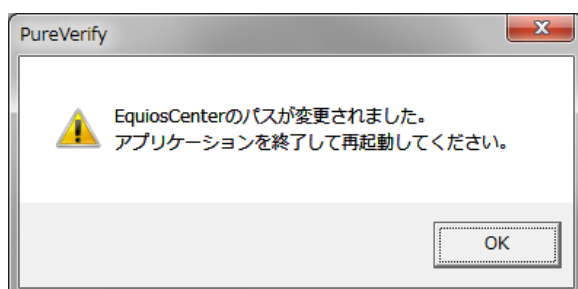
- 6、Preference ボタンを押します。



7、 preference 画面の EquiosCenter 設定で、D:\PureVerify\EquiosCenter を設定します。



8、 Preference の OK ボタンを押すと、メッセージがでます。



9、 PureVerify を再起動します。

4. 基本操作について

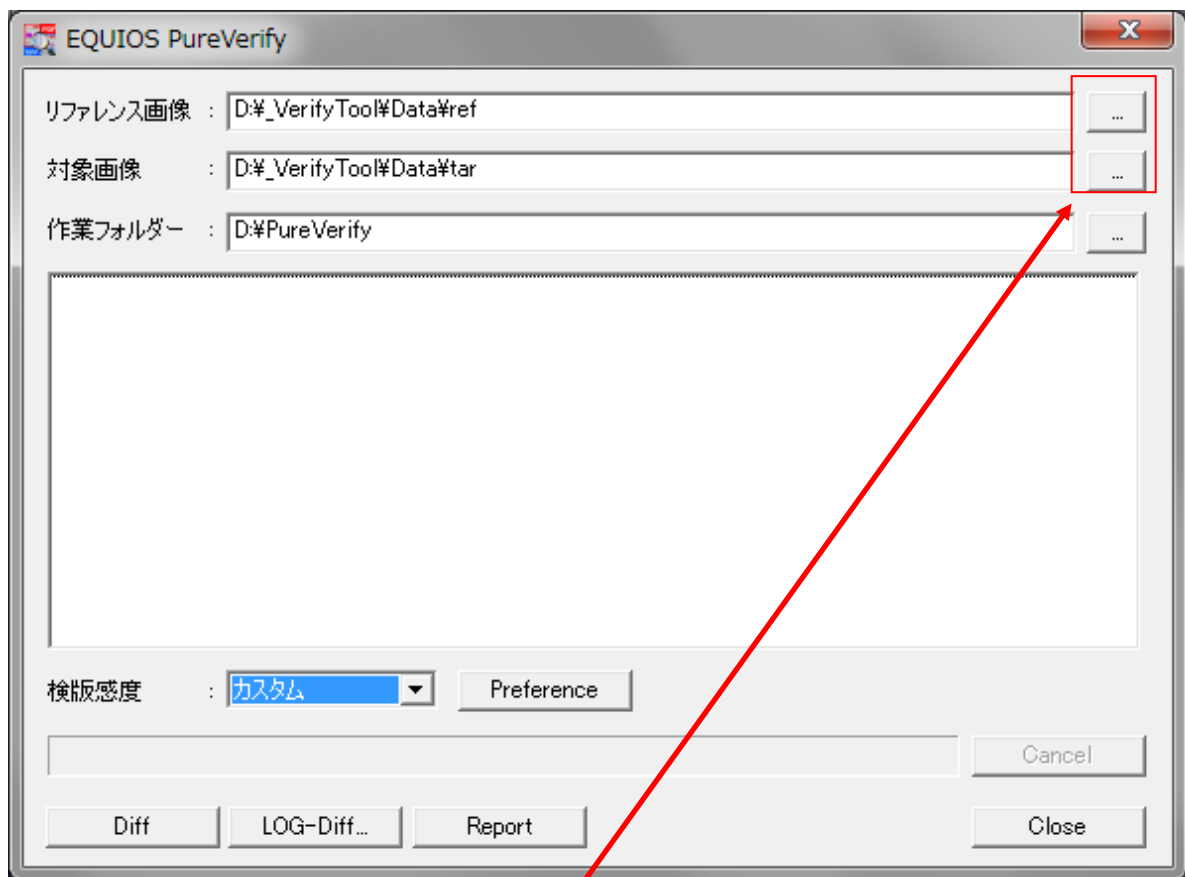
4.1 一連の流れ（PureVerify 起動から、検査結果レポートの確認ま

で。)

デスクトップ上の PureVerify ショートカットをダブルクリックします。



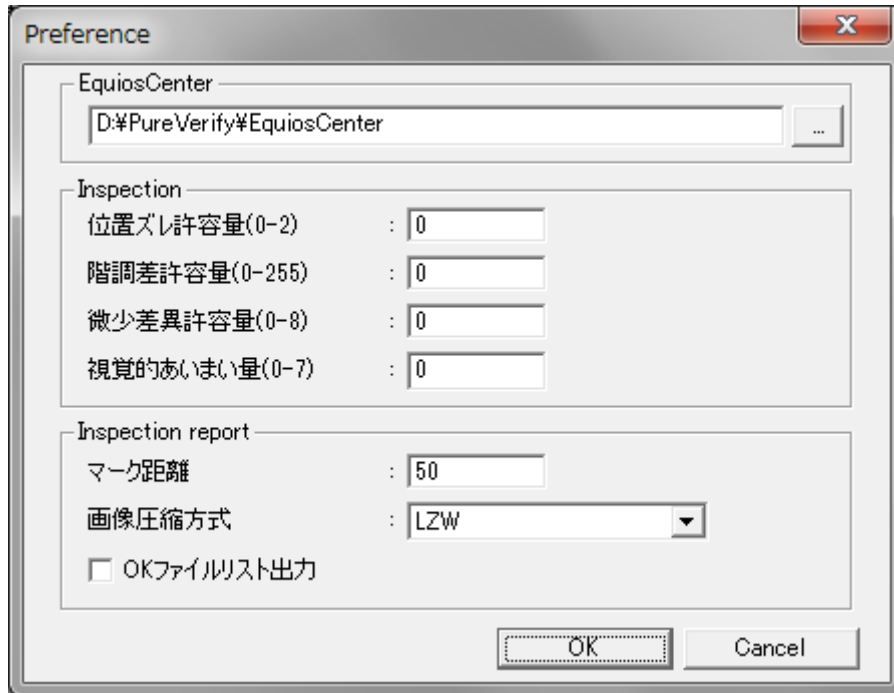
PureVerify が起動すると以下の画面が表示されます。



リファレンス画像、対象画像のフォルダーを指定します。

4.1.1 Preference 説明

検版感度「カスタム」を選び、Preference ボタンを押します。

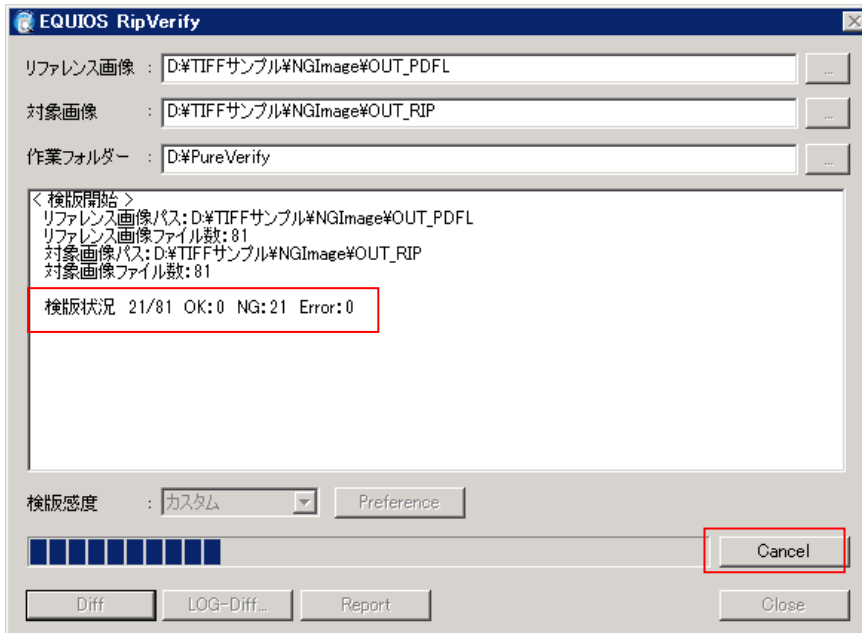


Inspection で検版品質を指定します。全て0にすると完全一致検版となります。

Inspection	「検版感度：」で使用される検版パラメータです。 「検版感度：カスタム」の状態では Preference ボタンを押した場合、検版パラメータを変更できます。
Position Tolerance(0-2) 位置ズレ許容量	基準画像と対象画像の位置ズレを補正する値を設定します。値を大きくすると、検出感度は弱くなります。設定範囲は 0 ~ 2pixel、入力単位は 1pixel です。
Gradient Tolerance(0-255) 階調差許容量	階調差異判定を行うための濃度許容値を 256 階調で設定します。1 階調で濃度が約 0.4%変化し、値を大きくすると、検出感度は弱くなります。
Smallness (0-8) 微小差異許容量 (孤立点除去)	微小な差異 (孤立点) を除去します。設定範囲は 0 ~ 8pixel、入力単位は 1pixel です。8 に設定すると、8pixel の差異は無視されます。
Perceptual Tolerance (0-7) 視覚的あいまい量 (ぼかし)	注目画素の周囲 x pixel の平均値で比較します。値を大きくすると、検出感度は弱くなります。設定範囲は 0 ~ 7pixel、入力単位は 1pixel です。
マーク距離	差異箇所マークのサイズを指定します。デフォルト値 5 0
画像圧縮方式	JPEG : レポートファイルのサイズは最少になりますが、モスキートノイズがでます。 ZIP : サイズは大きくなりますが、ノイズはでません。
OK ファイルリスト出力	検版結果 OK となったファイルリストを PDF レポートの最後に記載します。

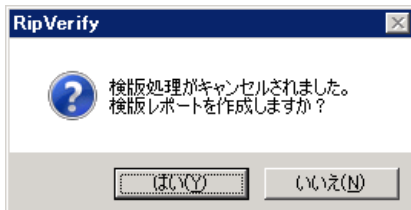
4.1.2 Cancel 説明

処理中は、Cancel ボタンで処理中止ができます。

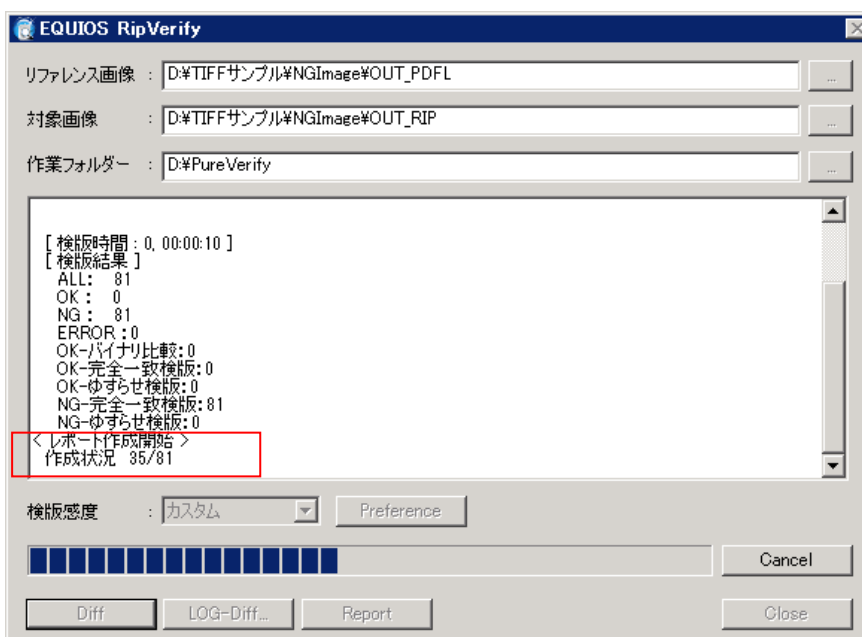


メッセージエリアに検版状況が表示されます。

検版中に Cancel を押すと、次のウインドウが表示されます。



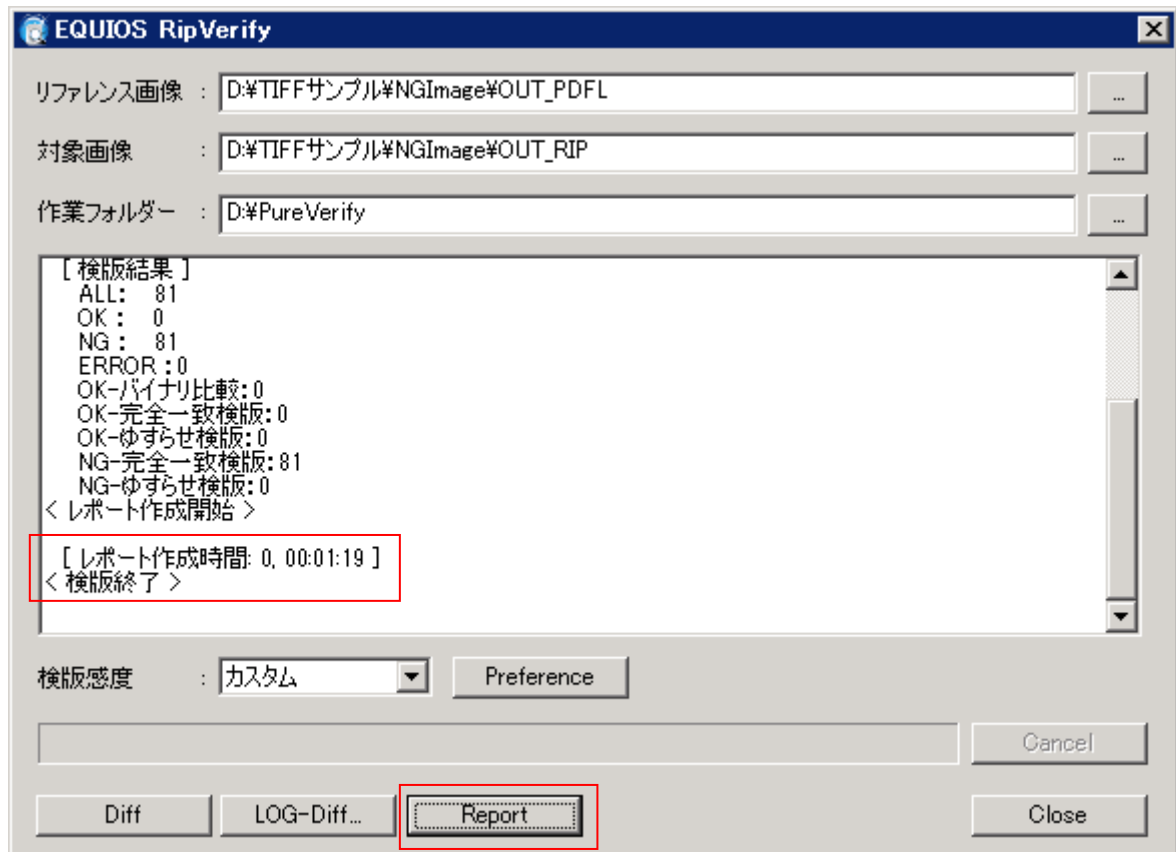
その時点で見つかった検版差異からレポートを作成する場合は、「はい」を選択してください。



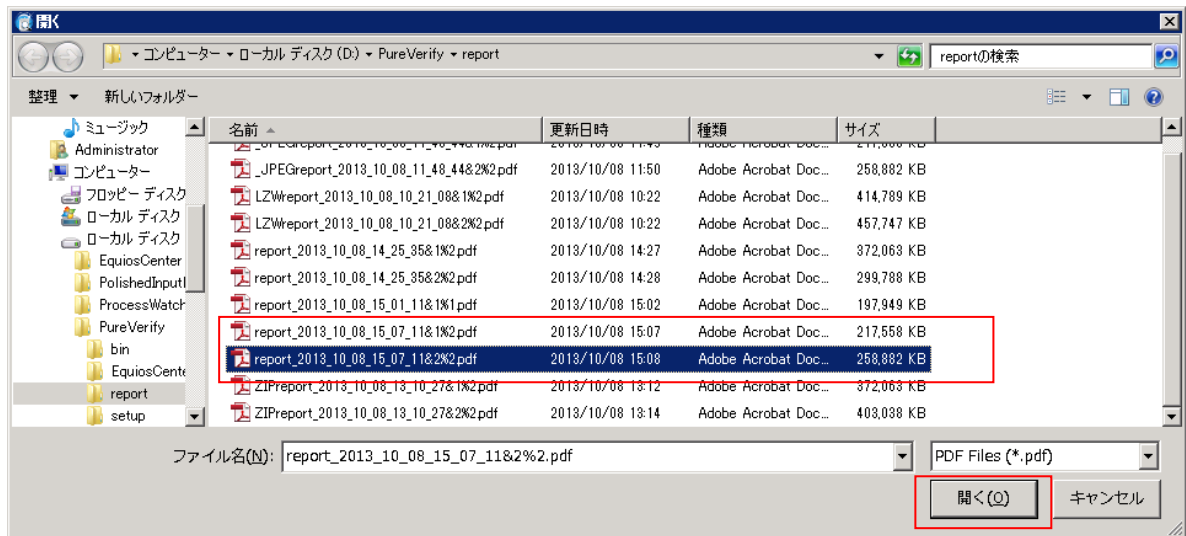
メッセージエリアにレポート作成状況が表示されます。

レポート作成中に、Cancel を押すと、その時点までに作成されたレポートを出力し終了します。

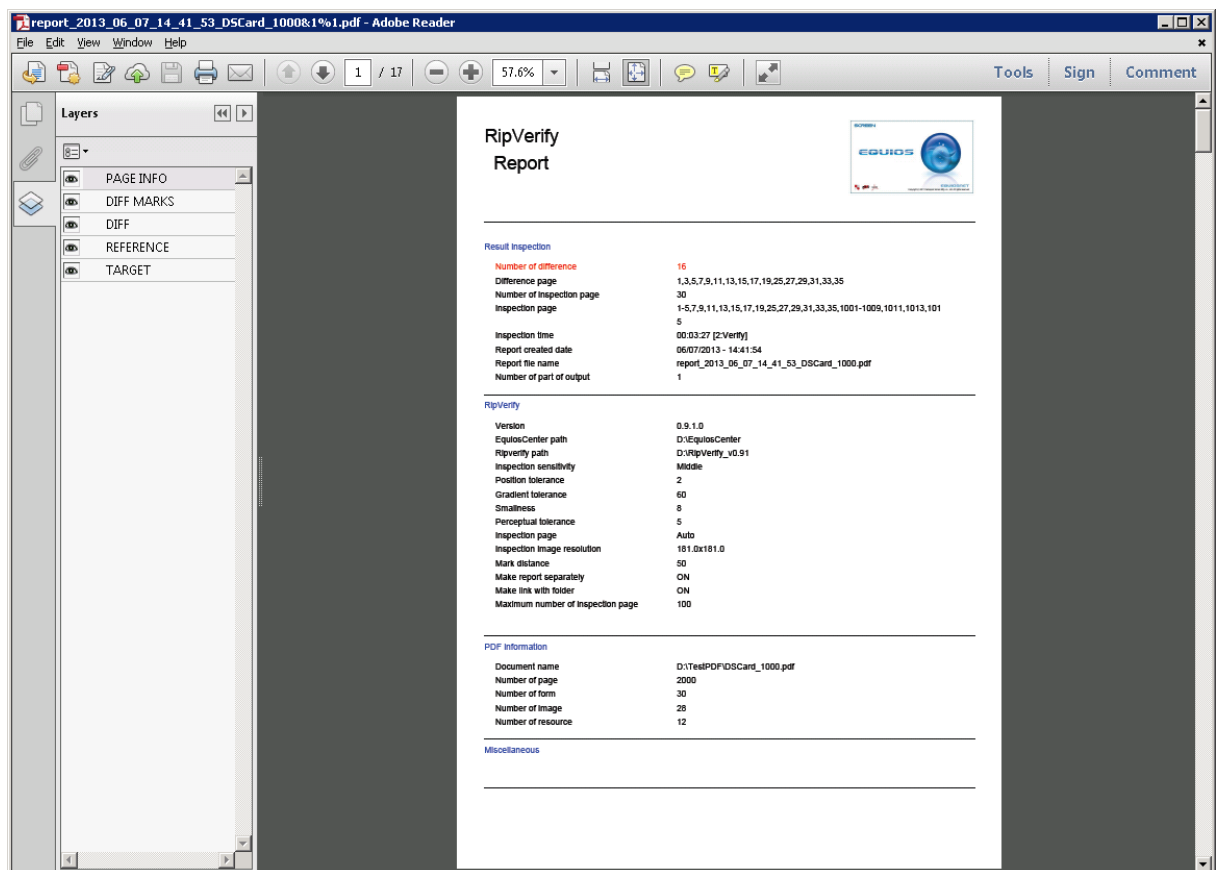
処理が終了したら、Report ボタンを押しレポート出力フォルダーを開きます。



検査を行った時間より、レポートファイルを選択し「開く」ボタンを押します。

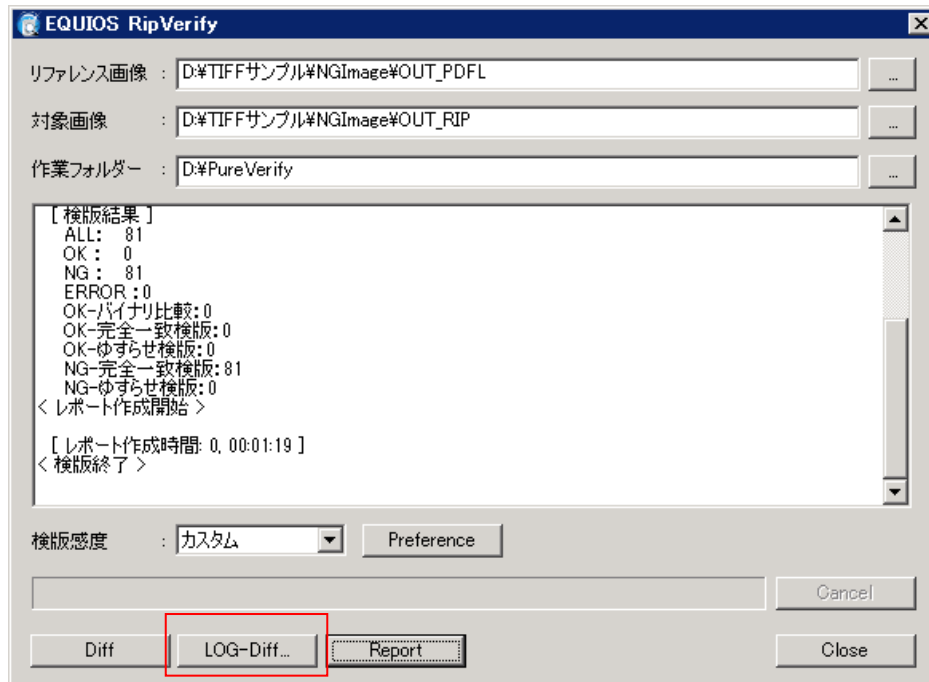


Acrobat でレポートを確認します。



4.2 LOG-Diff...ボタン

検版で差異の見つかったファイルのみ、検版パラメータを変更し再度検版を行う場合に使用します。



検版NGのログフォルダーを指定します。



5. 検査レポート

5.1 検査レポートのファイル名

PureVerify で検査した結果は、「検査レポート」(PDF ファイル) に出力されます。

検査レポートは PureVerify¥report フォルダに作成されます。

ファイル名は以下の規則で作成されます。

(検版差異があった場合)

report_<作成日時分秒>&<カレントファイル番号>%<全ファイル数>.pdf

(検版差異がなかった場合)

report_<作成日時分秒>.pdf

検査レポートは、システム設定値<検査範囲ページ数の最大数>を超えないようにファイル分割します。<全ファイル数>は分割数です。<カレントファイル番号>は分割順の番号です。

例)

2013/05/10 14時41分42秒 に作成した

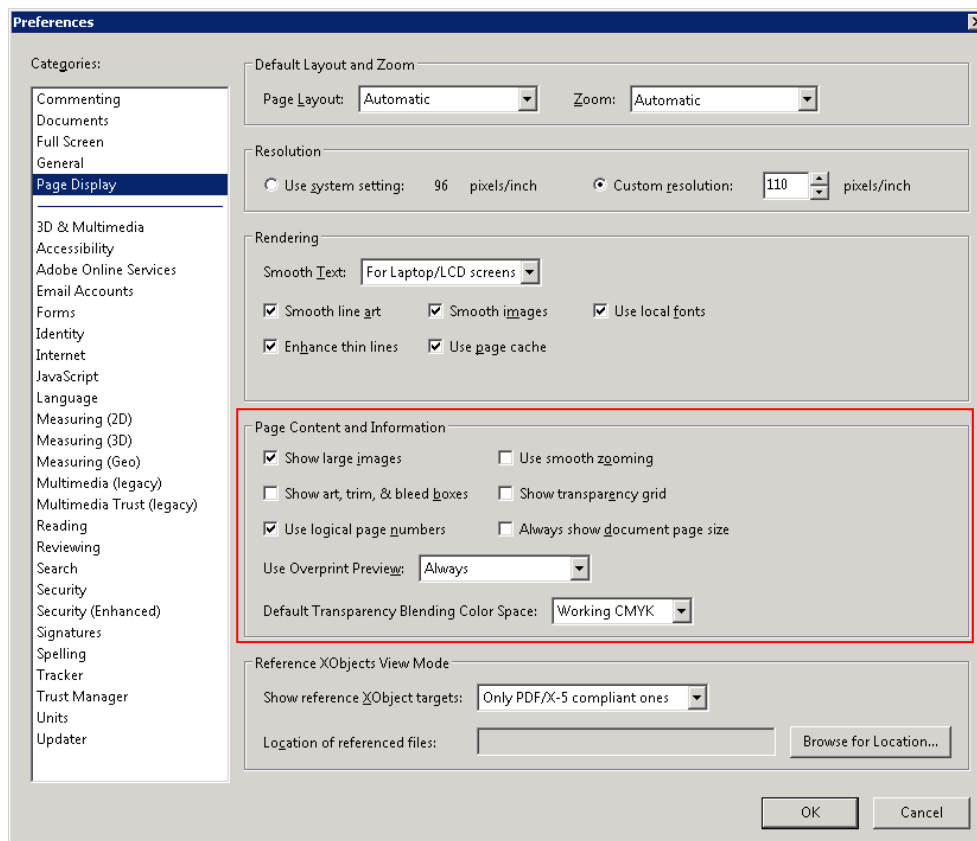
検査レポート (分割されていない) は以下のファイル名となります。

report_2013_5_10_14_41_42&1%1.pdf

5.2 Acrobat の設定

検査レポートは Acrobat で確認します。Acrobat は以下の設定でお使いください。

Adobe Reader XI の設定。Edit -> Preference より。



5.3 サマリー

検査レポートの1ページ目は検査結果のサマリーです。

RipVerify Report



検査結果

差異数	33
検査画像数	33
検査時間	00:00:11 [NGDiff]
レポート作成日	10/08/2013 - 15:41:43
レポートファイル名	report_2013_10_08_15_41_43.pdf
分割数	1

PUREベリファイ

バージョン	PureVerify Ver 0.1.0.0
EquiosCenterパス	D:¥PureVerify¥EquiosCenter
RureVerifyパス	D:¥PureVerify
検版感度	Strong
位置ズレ許容量	1
階調差許容量	30
微少差異許容量	5
視覚的あいまい量	0
マーク距離	50

画像情報

リファレンス画像パス	D:¥TIFFサンプル¥NGImage¥OUT_PDFL
リファレンス画像ファイル数	33
検査画像パス	D:¥TIFFサンプル¥NGImage¥OUT_RIP
検査画像ファイル数	33

その他

検査結果

差異数	検版差異が見つかったページ数。
検査画像数	検査を行った画像数。
検査時間	検査にかかった時間。 複数の入力 PDF の場合は合計の時間。[]内は Diff:Diff 実行、NGDiff:LOG-Diff 実行
レポート作成日	検査レポートを作成した日時。
レポートファイル名	検査レポートのファイル名。
分割数	検査レポートの分割数

PureVerify：検査を行った時の設定です。

バージョン	PureVerify のバージョン。
EquiosCenter パス	Preference で設定した、EquiosCenter パス。
PureVerify パス	PureVerify をインストールしたパス。
検版感度	検査実行時に指定した検版感度。
位置ズレ許容量	同上。
階調許容量	同上。
微小差異許容量	同上。
視覚的あいまい量	同上。
マーク距離	Preference で設定した値。

画像情報：

リファレンス画像パス	リファレンス画像のパス
リファレンス画像ファイル数	リファレンス画像のファイル数。
検査画像パス	検査画像のパス
検査画像ファイル数	検査画像のファイル数

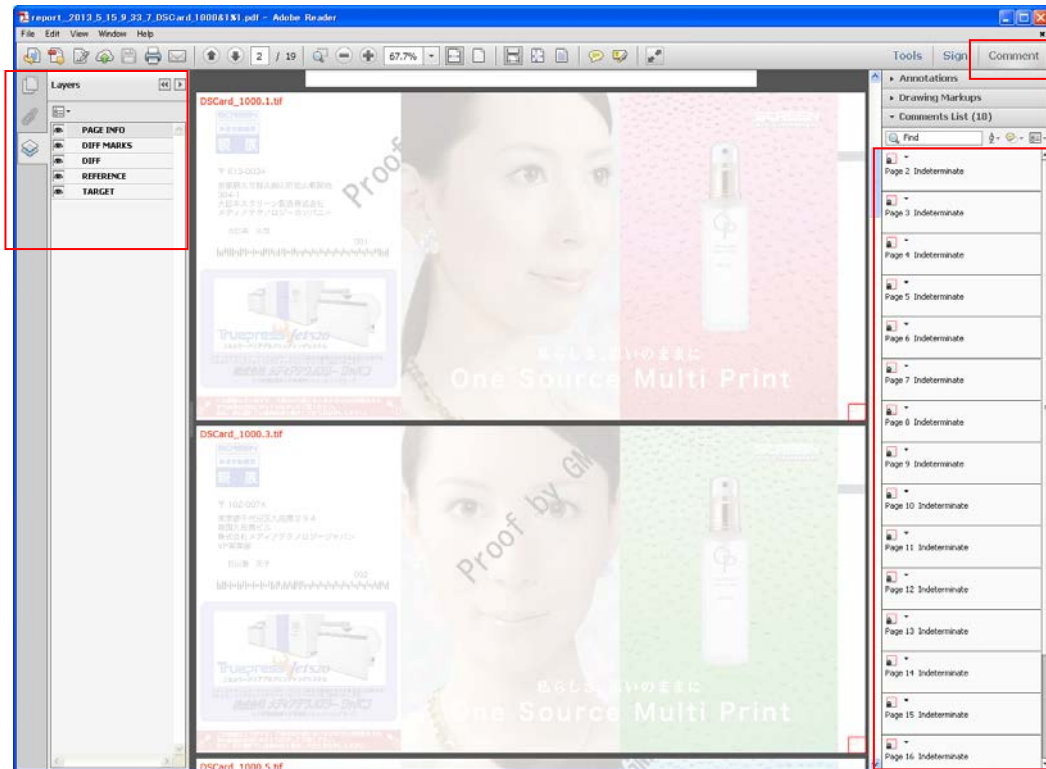
その他

その他の情報	エラー等の情報。※4
--------	------------

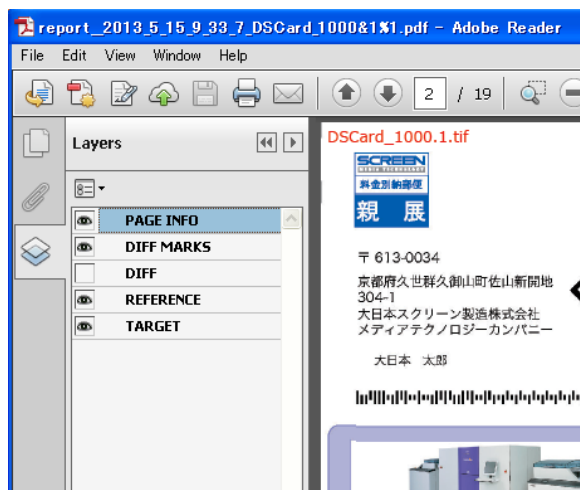
5.4 検版差異画像

【メモ】 検査レポートのサマリーの後は差異画像です。検査で差異が見つからなかった場合、差異画像はありません。

Acrobat のレイヤーリスト、注釈リストを表示します。



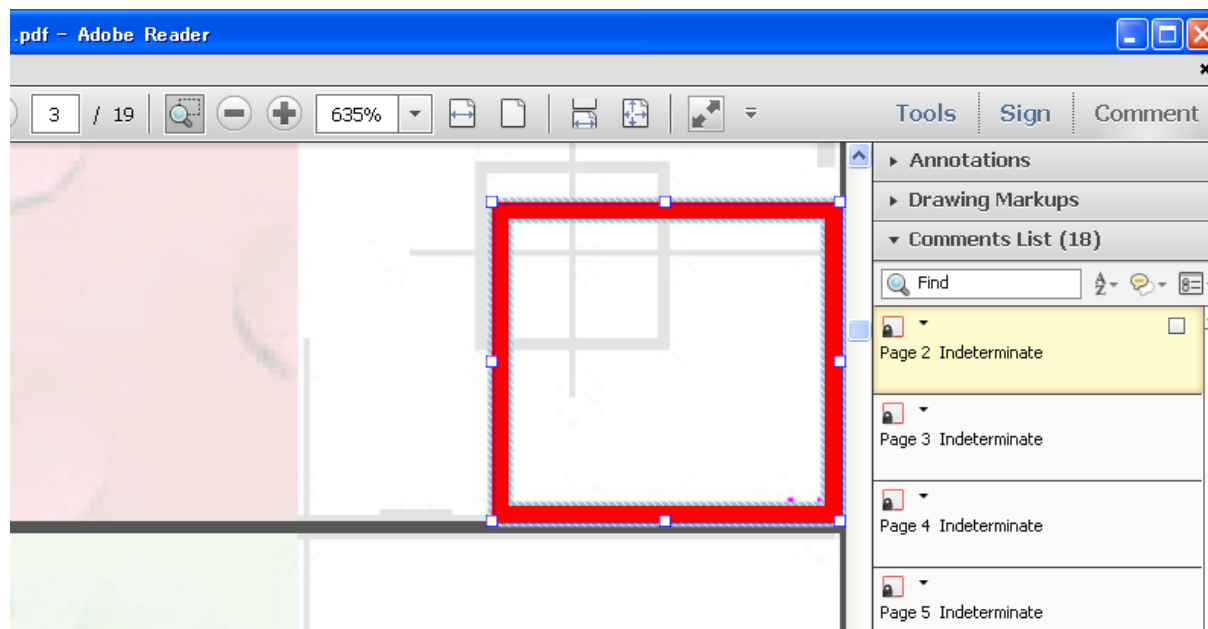
Layers の説明



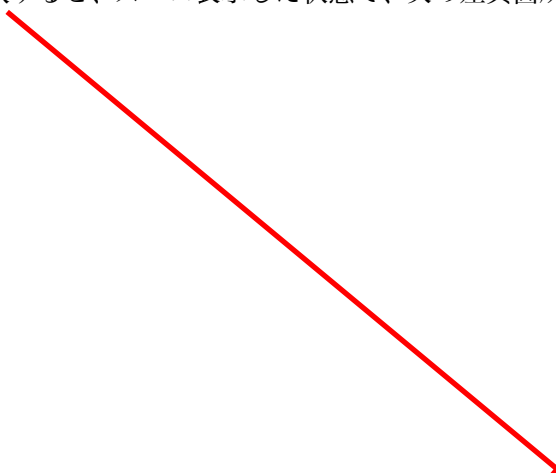
PAGE INFO	ページの左上に”ファイル名+ページ番号+tif”を表示します。クリックすると入力PDFの該当ページがAcrobat別ウィンドウで表示されます。
DIFF MARKS	検版差異箇所を囲む赤枠を表示します。
DIFF	検版差異画像を表示します。
REFERENCE	リファレンス画像を表示します。
TARGET	ターゲット画像を表示します。 EQUIOS の RIP 結果です。

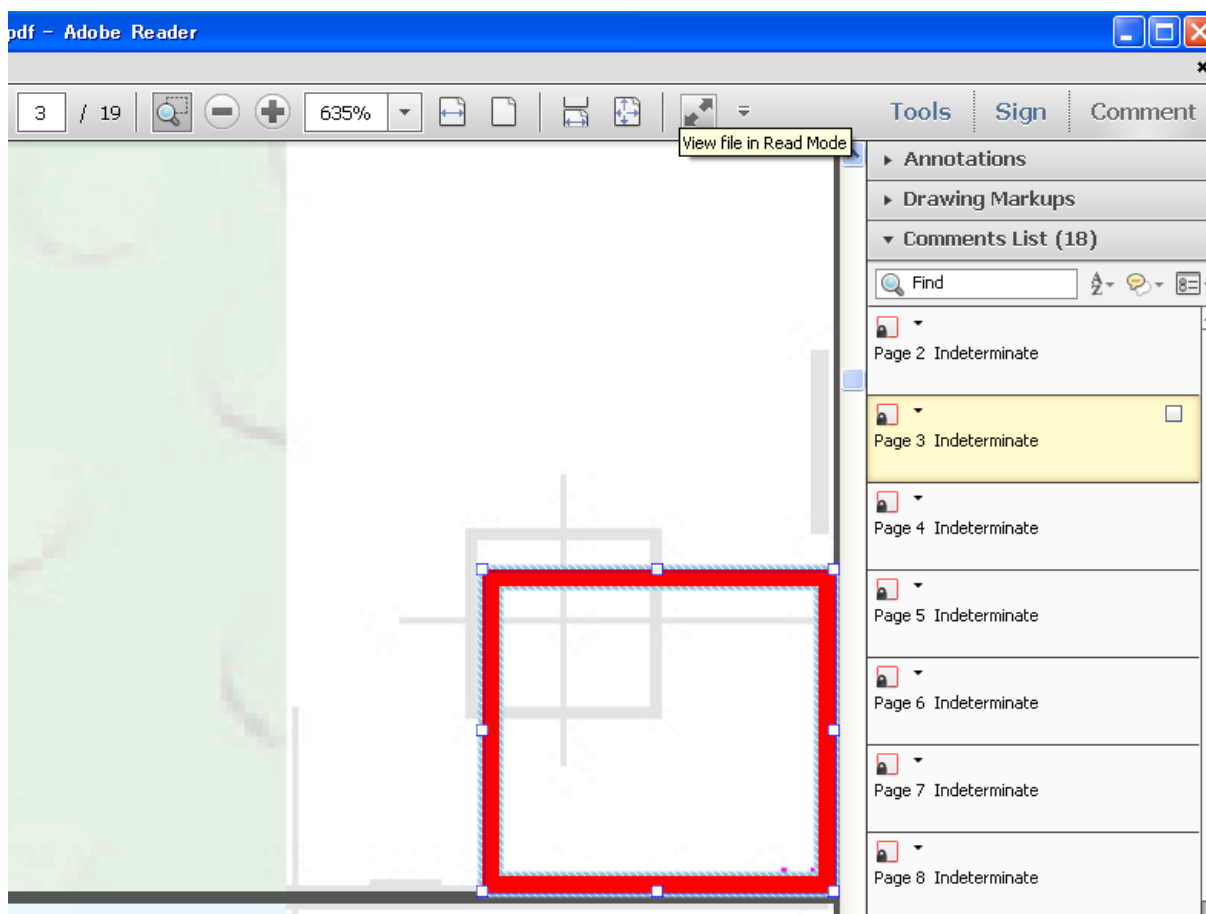
5.4.1 注釈の説明

DIFF MARKS は注釈で作成されています。注釈リストは DIFF MARK のリストが表示されます。

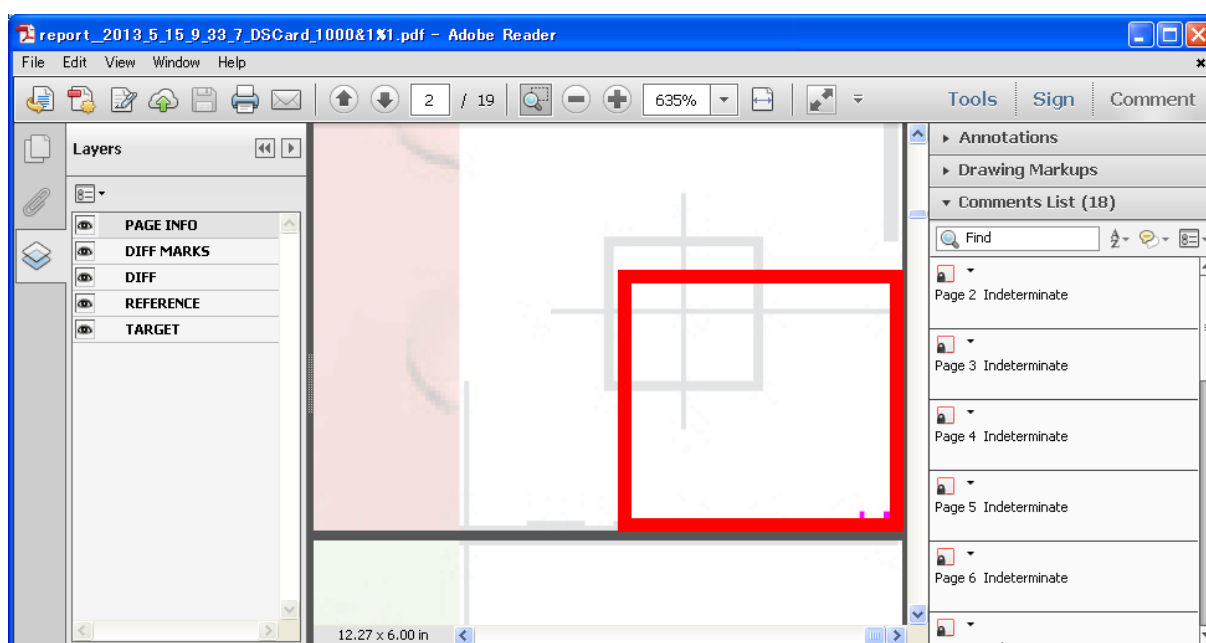


注釈リストより次の DIFF MARK を選択すると、ズーム表示した状態で、次の差異箇所が表示されます。

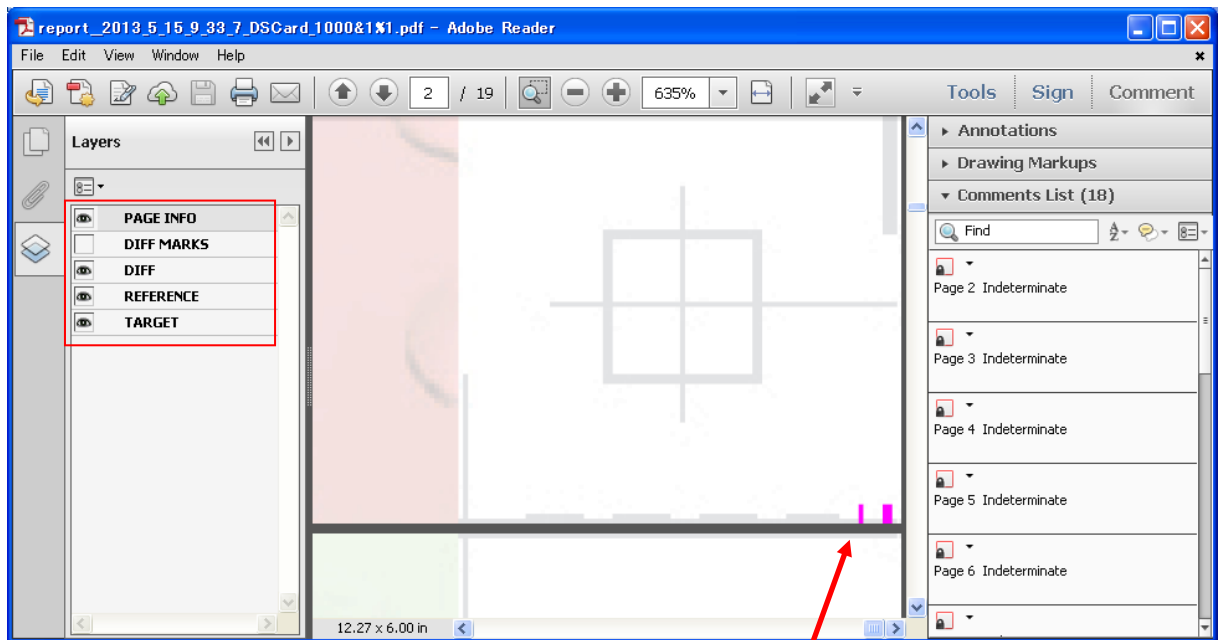




差異箇所は、Layers より、DIFF MARKS, DIFF, REFERENCE の表示を切り替えて確認してください。

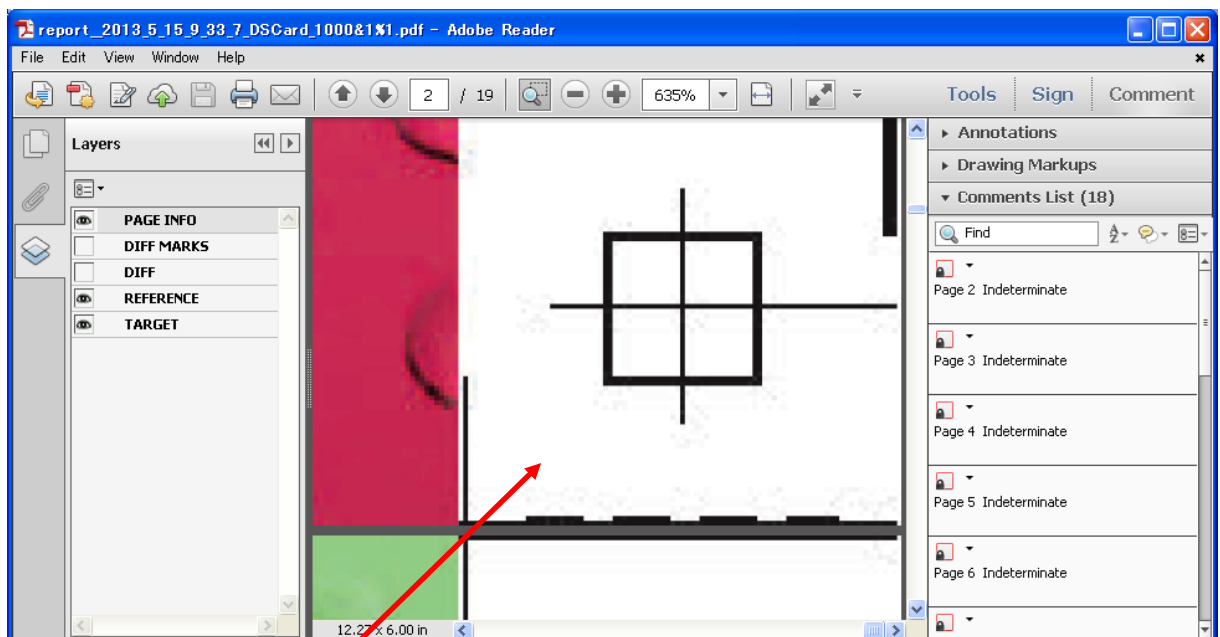


全ての表示 ON



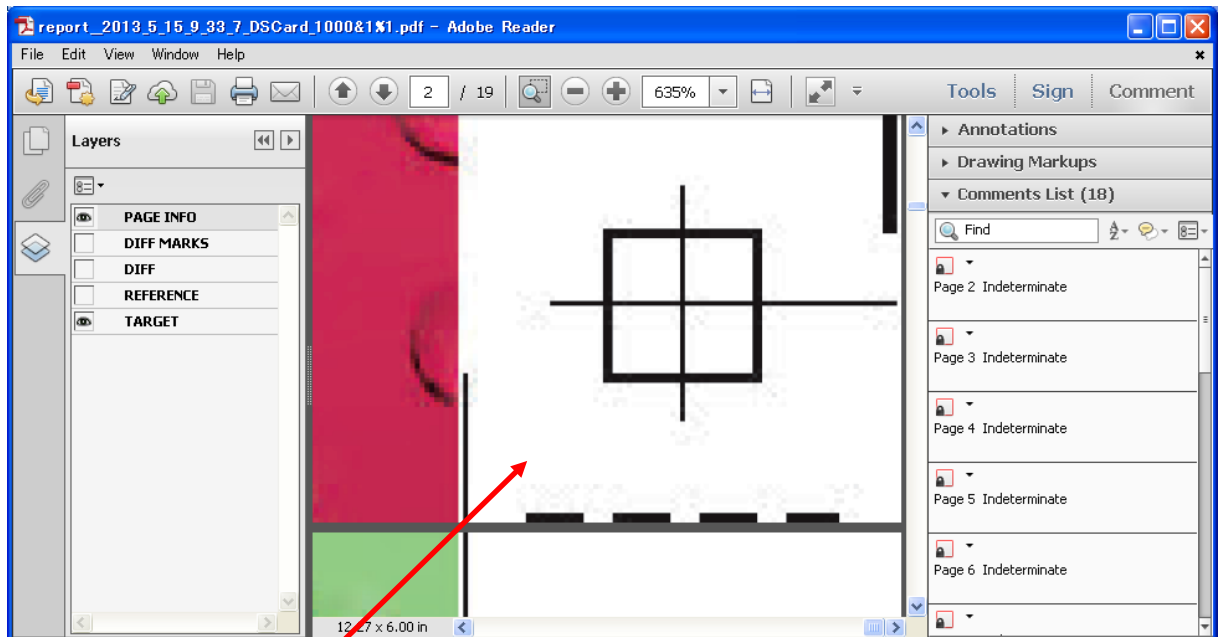
DIFF MARKS 表示 OFF

検版差異箇所は、ピンク色で表示されます。



DIFF 表示 OFF

REFERENCE 画像 (PDFL で作成した画像) が表示されます。



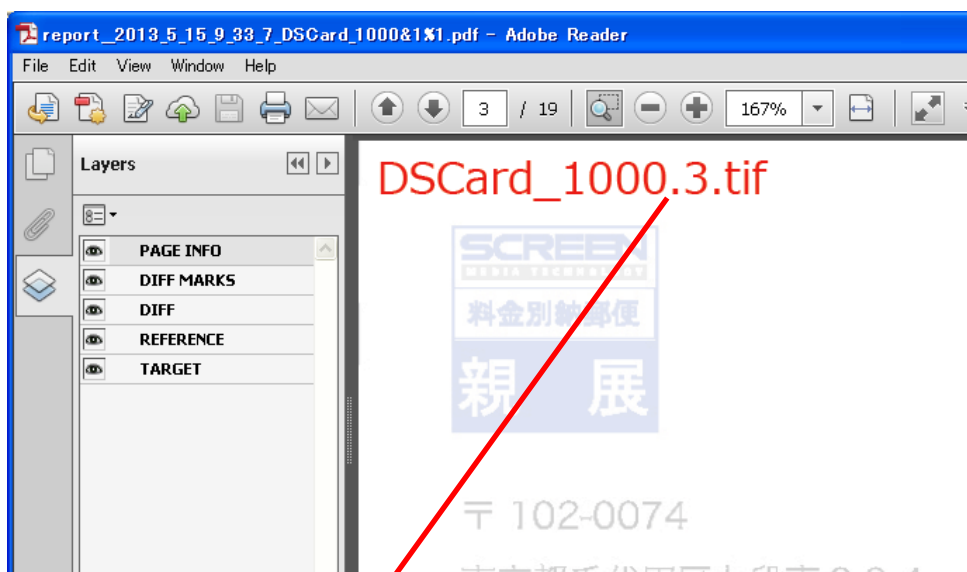
REFERENCE 表示 OFF

TARGET 画像 (EQUIOS RIP で作成した画像) が表示されます。

5.4.2 オリジナル PDF の表示

PAGE INFO (差異画像の左上のファイル名) をクリックすると、入力 PDF が表示されます。

【注意】オリジナル PDF ファイルと検査レポートを同じフォルダに置く必要あり。





入力 PDF の 3 ページ目が、Acrobat の別ウインドウで表示されます。
検版差異が見つかった箇所は、入力 PDF で確認してください。

7. 留意事項

7.1 留意事項

留意事項を説明します。

→DotTiff は現在対応していません。(対応予定あり)

- ・レポートの網%を確認するには、Acrobat が必要です。
- ・PureVerify は 64bitOS 上で動作します。
- ・レポートのリンクより、オリジナルの PDF を開く方法。
レポート PDF をオリジナルの P D F と同じフォルダーに置いて、レポートを開いてください。

※現在、Trueflow(マクロ%n%p)で TIFF 出力を行った場合、00Tr0846-RipNGPAGE1.TIF のようにページ番号が PAGE1 で出力されます。この書式に対応していないため現在リンクを使用できません。

8. 付録

8.1 フォルダ構成

PureVerify のフォルダ構成を説明します。

RipVerify	
bin	EXE,DLL
report	検査レポート、ログの出力先。 ログファイルが不要な場合は、セットアップファイルを変更してください。
setup	セットアップファイル 詳細設定ファイルの配置場所。 ⇒8. 3セットアップファイルについて
work	ワークフォルダー Verify実行時に以下のフォルダー内は削除されます。
OUT_DIFF	検版結果出力先
OUT_INFO	検査レポートのワーク
OUT_PDFL	PDFLのTIFF出力先
OUT_PPP	入力処理のワーク
OUT_RIP	APPEのTIFF出力先
OUT_WORK	RIP処理のワーク

8.3 セットアップファイル

セットアップファイルについて説明します。

D:¥PureVerify¥setup¥PureVerifyMainSetUp.txt

/// User Configuration ///

キー名	説明	初期値	入力範囲
**PDFREPORT_PASSWORD:	検査レポートファイルにパスワードを設定します。 空白の場合、パスワードは設定されません。		

/// Advanced Setting ///

キー名	説明	初期値	入力範囲
**PDFREPORT_SPLIT_PAGENUM:	検査レポートを分割するページ数を指定します。 この値が100の場合で、検査レポートが250ページの場合、100ページ、100ページ、50ページに分割し出力します。	30	10-100
**MakeThreadNums:	最大スレッド数を指定します。 0を指定した場合、CPUコア数に応じて自動設定されます。	0	0-20
**LogLevel:	ログ出力の設定です。 0: ログ出力しない 1: デバッグ用 2: 通常ログ 3: 重要事項のみ	2	0-3
**IS_DELETE_WORKDIR:	作業フォルダ 1: 作業フォルダを削除する 0: 作業フォルダを削除しない	1	0,1
**CompressTyp	レポート作成時の画像圧縮方法	2	0-4
**MAX_TIFF_SIZE	検査画像の MAX サイズ。(MB) この値を超えた場合、RESAMPLE_SIZE になるよう画像を間引きます。(メモリエラー対策)	2048	
**RESAMPLE_SIZE	間引き後の画像サイズ(MB)	1024	

D:¥PureVerify¥setup にあるファイルの説明

ファイル名	説明	備考
DtDiffSetUp_Custom.txt	Custom 検版パラメータ	
DtDiffSetUp_H.txt	Heavy 検版パラメータ	
DtDiffSetUp_L.txt	Light 検版パラメータ	
DtDiffSetUp_M.txt	Middle 検版パラメータ	
equios.jpg	検査レポート用ロゴ	
PureVerifyDlg.env	PureVerify 環境設定ファイル	PureVerify を初めて起動したときに作成されます。 PureVerify のインストールパスを変更した場合は、このファイルを削除して PureVerify を再起動してください。

		ださい。
PureVerifyMainSetUp.txt	PureVerify 用設定ファイル	カスタマイズ可能です。
PureReportSetup.ja.xml PureReportSetup.en.xml	レポート作成時のテンプレート	

8.4 エラーコード

エラーコードについて説明します。

<レポート作成>

エラーコード	内容
28	Top page setting file not found.
29	Cannot init PDF library.
30	Top page exceed one page.
31	Cannot create layer info.
32	Cannot create layer Diff Mark.
33	Cannot create layer Diff
34	Cannot create layer Reference.
35	Cannot create layer Target.
36	Cannot create annotation.
37	Cannot create main font.
38	Cannot create default font
39	Cannot embedded font.
40	Cannot read tiff file.
41	Output path invalid.
42	Reference directory path invalid.
43	Target directory path invalid.
44	Difference directory path invalid.
45	Original directory path invalid.
46	Report item directory path invalid.
47	Tiff file does not exist.
48	TimeOut
1000	Can not init xerces-c lib.
1001	Template report file not found.
1002	Unit don't supported.
1003	Can't create memory.
1004	Image size too large.
1005	Width of diff tiff image too big
1006	Height of diff tiff image too big